

第3学年 保健体育科 学習指導案

大和郡山市立郡山西中学校

教諭 山崎 啓安

1. 単元名 保健体育 健康と環境 6, 環境問題への取り組み

2. 単元の目標

・(知識・技能)

身体对环境に対する適応能力・至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理、生活に伴う廃棄物の衛生的管理などの健康と環境について、理解することができるようにする。

・(思考・判断・表現)

健康と環境に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病などのリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。

・(主体的に学習に取り組む態度)

健康と環境について、健康の保健増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

3. 単元について

(1) 教材観・・・身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること、また、身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことについて言ったり、書き出したりするとともに、身体对环境に対する適応能力について、課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができる。

(2) 生徒観・・・2年生は35名の3クラスで構成されている。男女の人数比は、女子の方がやや多い。全体的に明るく活発な雰囲気がある一方で発言や行動にまだ幼さが残り、中学2年生として自律的に考えて行動する力に乏しいと感じられることも多い。
新体カテストの結果は、全国平均とほぼ同じでバランスが良いが、男女ともに20mシャトルランの数値が低い。アンケートでは、体力が必要だと思いますかという質問では、ほぼ全員が必要だと回答している。しかし、運動頻度の問いでは、週3回以上運動を行う生徒が多くいるが、運動をしないと答えた生徒もいる。また、朝食を食べない、間食をよくすると答えた生徒も多いた。自分の生活習慣が、自らの健康に繋がることを理解させ、身近な課題を改善していけるように授業展開していきたい。

(3) 指導観・・・本単元の指導にあたって、身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること、また、身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことを学習し、どのようなことに注意が必要なのか考えさせるようにする。

次に、環境が生活に影響していることについて身近な課題を考えさせ、どのように改善していけば良いかグループで意見を出し合い、人の意見を聞くことで様々な考えを学習することができる。その中で、自分自身の生活に繋がる改善点を考え、改善していく方法を見つけさせる。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

相互性・・・環境の変化と気温の上昇は、密接な関係があり、これらを無視して続けていけば地球環境に大きな負荷をかけること

連携性・・・環境問題は、一人だけが努力するのではなく、社会全体で考え、努力していくことが大切であること

責任性・・・熱中症対策や気候変動を基に、一人一人ができることを継続的に行うという考え、環境とバランスを取り、適応していくことが大切であること

・本学習で育てたいESDの資質・能力

自ら進んで環境の保護・保全に参画しようとする態度

我々が直面している問題に対して、議論や活動に主体的に参加し、自ら進んで環境への適応に向けた実践を行おうとする態度を育成する。

批判的に考える力

環境に配慮した生活行動をしているか、自分の生活を見つめなおす。

・本学習で変容を促すESDの価値観

自然環境・生態系の保全を重視する価値観

幸福であることを大事にする価値観

・達成が期待されるSDGs

(目標7) 安価で信頼できる現代的エネルギー供給を確保し(目標13) 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び、早期警戒に関する教育、啓発、(目標12) 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにすることに繋がっていく。

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 身体には、環境に対してある程度までの適応能力があること、また、身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあることについて、書き出したりしている。</p> <p>② 快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることについて、書き出したりしている。</p> <p>③ 地球の平均気温が上昇していること、温室効果ガスが関係していることについて書き出したりしている。</p>	<p>① 身体的环境に対する適応能力・至適範囲に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病などのリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合っている。</p> <p>② 環境問題が大きく変化する時代に、自らの課題を考え、自分たちができる解決方法を選択し、それらを伝え合っている。</p>	<p>① 身体的环境に対する適応能力・至適範囲について、課題解決に向けた学習活動に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>② 身近に起きている気候変動について課題解決に向けた学習活動に自主的に取り組もうとしている。</p>

5. 単元の指導計画(全4時間)

次	主な学習活動	学習への支援(・)	評価(△) 備考(・)
1	<p>○気温の変化に対する適応能力とその限界について</p> <p>・身体の適応能力とその限界について理解する</p> <p>・熱中症を例に、各グループ夏季スポーツイベント開催時の開催者側に立った予防策を考える</p>	<p>・身体には調節機能と一定の範囲内での環境に適応する能力があることに気付くことができるようにする</p> <p>・適応能力の限界を超えると健康に重大な影響を及ぼすことがあることに気付くことができるようにする。</p> <p>・熱中症のどのような要因に注目したかを明確にし、発表できるように促す。</p> <p>・発表を踏まえ自分の生活様式を考えることができるようにする。</p>	<p>△ア1</p> <p>△イ1</p> <p>△ウ1</p>
2	<p>○熱中症の予防から環境問題を考え、解決策を考える</p> <p>・なぜ、熱中症になる人が多くなったか考える。</p> <p>・地球温暖化の原因は何か考える タブレットを使って調べる。 グループで調べた内容を発表する。</p>	<p>・熱中症による救急患者数の変化のグラフをみせる</p> <p>・日本の年平均気温偏差のグラフと全国(13地点平均)日最高気温35℃以上の年間日数のグラフをみせる</p> <p>・「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の報告書によると、現状のまま温室効果ガスが増え続けると、地球の平均気温は2100年までに0.3～4.8℃、海面水位は最大26～82cmの範囲で上昇するだろうと予測されていることを理解させ、地球にどのような影響が出るか考えられるようにする。</p>	<p>△ウ1</p>
3	<p>・地球の気候変動について考える。 タブレットを使って調べる。 グループで調べた内容を発表する。</p>	<p>・温室効果ガスが増えたことに気付かせる。なぜ温室効果ガスが増えたのかをグループで考えさせる。</p>	<p>△ウ1</p>

	<p>・地球温暖化が進むと地球にどのような影響が出るか考える。 タブレットを使って調べる。 グループで意見交換し、グループごとに発表する。</p>	<p>・自然環境・生態系についても気付かせる。 ・地上気温や海面温度の上昇に伴い水蒸気が大量発生して積乱雲が発達し、各地で極端な豪雨が頻繁に発生しつつある。日本の(身近な)気候変動にも気付かせる。</p> <p>海面上昇が原因で、何年後かに沈む可能性のある島(国)もあることを掲示する。 ・自然変動や都市化にも原因があることにも気付かせる。</p>	<p>△ア3</p>
<p>4</p>	<p>・地球温暖化を防ぐためにどのようにしていけばいいか考える</p> <p>・メガソーラーについて考える</p> <p>自分たちの地域にメガソーラー建設されるとなったらどのように考えるか発表させる</p> <p>・自分達ができる温室効果ガスを減らすためにできることを考える。</p> <p>・自分なりの今後の生活様式を考える 衣・食・住に分けて意見を出し発表する</p>	<p>・発電する方法は、どのようなものがあるが、考えさせる。</p> <p>・メガソーラーとは何かを説明し、メガソーラーの良さの問題点を考えさせる。</p> <p>地域の写真と地図を掲示する</p> <p>・温室効果ガスの排出を減らすためにどうすればいいか考えられるようにする。</p> <p>・今後の自分の生活を考えられるようにする。 衣・食・住で自分のできることを考えるようにする。</p>	<p>△イ2</p> <p>△イ2</p> <p>△ウ2 自ら進んで環境の保護・保全に参画しようとする態度</p>